# NIE実践報告

1．タイトル：平和を求めて

2．学校名

新潟県長岡市立新町小学校

3．実践者名（代表者名）

水野　あゆみ

4．学年

第５学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　３５人

6．単元（本時の学習課題）名

父ちゃんの凧と私

7．目標(狙い)

登場人物の心情に寄り添って「父ちゃんの凧」を読み、長崎源之助さんの平和を求める思いから生まれた複数の作品を読み重ねることで、平和の大切さについて自分の考えを深めることができる。

8．評価の視点

・作者の平和を求める思いを知り、他の作品を読もうとする意欲をもつ。
・作者の思いを確かめながら読書をし、平和の大切さについて自分の考えを深めたり広げたりできる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「父ちゃんの凧」（教科書教材：学校図書）　　１０時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①教材文「父ちゃんの凧」を読み、学習計画を立てる。（２時間）
②教材文を登場人物の心情に寄り添いながら読み、話し合うことで、平和の大切さについて自分の考えをもつ。（５時間）
③「父ちゃんの凧」の作者を紹介する新聞記事を活用することによって、作者の平和への思いを知り、平和の大切さについての自分の考えを深めたり広げたりする。（3時間）

(留意点)
・新聞記事をとおして、「父ちゃんの凧」の作者・長崎源之助さんが、病身をおしても物語を書き続け、物語をとおして伝えたいことは「勝敗にかかわらず人の心と体を滅ぼすのが戦争」であることを知らせる。
・作者の思いが「父ちゃんの凧」のどこに表れているかを本文に立ち返り確かめさせる。
・新聞記事で取り上げられている他の作品を紹介し、読んでみたいという意欲につなげる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞記事によって作者の他の作品への関心が高まり、普段読書に抵抗を示す子どもも、自分から２冊、３冊と手にとって読んでいた。新聞記事を読んだ後に教材文を再度読んだり作者の他の作品を読んだりすることで作者を身近に感じた子どもたちは、自分の思いや考えを伝えたいと作者に手紙を書いていた。

12．成果と課題

新聞記事を活用したことで、作者や作品の背景を知り、作品をよりよく理解することができた。本時の学習後には「最初に父ちゃんの凧を読んだ時より、新聞記事を読んでからの方が、内容がよく分かった。」という感想が聞かれた。また、重ね読みや作者に宛てた感想を書く動機づけとして、この記事は有効であった。